

# 新しい吟友とともに “もう一歩前進”を！

令和六年も、早や後半を迎えました。未曾有の能登半島地方の元日地震災害は、未だその傷跡が癒しきっていません。明るい展望の開けるよう祈ります。

「宗家 旭日双光章受賞記念」全国吟道大会が六月二十一日（金）に「エポックなかはら」にて開催されました。



令和六年七月  
千代田岳精会弘報

令和六年岳精流指標

徳

## 会長 鈴木 精成

北は札幌、南は九州地区から全国七〇〇名余の吟友大結集でした。私たち千代田からは一三二名が参加エントリーし、男子A・B・女子A・Bに分かれての一般合吟で活気ある吟詠を披露できたことは圧巻でした。

「合吟コンクール」参加の男女チームの吟詠ぶりは見事でした。女子チームの三位入賞は大拍手であり、男子チームの上位健闘も立派でした。両チームとも会場、練習日程等むつかしい条件を乗り越えての地道な取組みの成果です。合吟のチームワークの大切さ、基本を生かすことの重要性を学ぶことが出来たのではないのでしょうか。

構成吟に参加の吟詠、剣詩舞の皆さんも存分の出来栄でした。

大会を成功させる大事な役割は、諸役員のご努力でした。千代田挙げての「コンクール」担当はご苦労さまでした。伴奏、集票、集計、表彰と一連のお取組みは大変だったと推察します。

特別依頼の「舞台係」「物品搬出入」を担当いただいた皆様にも厚く御礼申し上げます。

令和六年の後半は、「新しい吟友（なかま）と共に元氣な教場を！」の今年のスローガンのもと、「教場」の現在を見つめなおし、一歩も二歩も前進する機会にいたしたいと思います。

年初設定の「教場前進計画」を改めて確認し、

自教場の前進に教場を挙げて取り組みたいと思います。

各教場の現状と今後の取組みを改めて左記に挙げてみましょう。

### ○現状

各教場の「現状の再確認」

### ○今後の取組み

各教場の「今後の取組みの再確認」

私たち千代田岳精会は、前進への歴史を刻みつづ令和八年（再来年）創立四十周年を迎えます。岳精流統の先頭を切ってきている我が会として、これを機に一層の前進を目指したいものです。今から、この後半から、充実した教場づくりを目指して新しい吟友をお誘いしようではありませんか！

先月、千代田のホームページを見て入会してこられたKさんも「吟道大会」に見学参加されました。嬉しい「一大歩」です。あちこちの教場で新しい吟友の明るい吟声が聞こえる令和六年にしましょう。



宗家 横山精真

旭日双光章受章記念

# 全国吟道大会 開催

今年の会場は例年の「カルッツかわさき」から武蔵中原の「エポックなかはら」へ変わり、大方の会員にとっては初めての場所で会場の様子や運営要領も手探りのなか準備を進めての開催でした。大会役員、関係者は会場準備、設営のため前日の夕方六時から現地集合し、担当グループによつては夜九時頃まで入念な打ち合わせと準備に従事しました。

大会当日の六月二十一日は朝から本格的な雨模様で時折風雨が強まるなか、日本全国の吟友約七〇〇名が「エポックなかはら」へ参集し『宗家 横山精真 旭日双光章受章記念 全国吟道大会』の幕が切つて落とされました。

大会プログラムは全国各支部の役員が舞台・会場・司会・音響照明・昼食休憩等々、各々が役割を果たし粛々と進行していききました。

今大会は不慣れな新会場で荒天下の開催、少子高齢化環境での会員数の状況等、様々な逆風下の開催だったと思います。会も終盤になり宗家の「雨ニモ負ケズ」を聴いていると涙がこぼれました。

全てのプログラムが終了し、帰路に着く頃は始めの時の緊張、不安げな表情は吹き飛び、皆様の顔がキラキラ輝いて達成感と満足、安堵の表情に満ちていました。



千代田、女子合吟Bチーム



千代田、男子合吟Aチーム

## 第二部 合吟コンクール



千代田女子チームの皆さん（3位入賞）



千代田男子チームの皆さん（男子上位）

## 第十部 構成吟「神奈川吟行」主な場面



松岡省山、森兼康山  
（表参道教場）  
「箱根駅伝第四区吉田祐也  
を讃う」

## 「舞」の皆さん



小谷野 彩煌



横山 千秀



松尾 千壮

## 全国吟道大会に初めて参加

ハザマ支部教場 宮澤 敏雄

神田教場中野郷泉さんのご紹介で二月に入会しました。入会してまだ日が浅いため大会準備係に指名されました。まず本部へ出向き、合吟コンクールのカップを磨き、また宗家のご指導のもと、会旗の仮セットをし、大会前日は物品を取り違えないように注意して車に積み込んで会場でセットをお手伝いしました。

「エポックなかはら」会場での大会当日、全国各地からの先生方の吟詠には感激いたしました。そして何ととっても宗家吟詠「雨ニモ負ケズ」は感銘を受けました。最後のコンクール結果発表では、千代田岳精会女子が三位入賞されました。日頃からの努力が実を結んだのではないのでしょうか。大会に初参加して、詩吟はスバラシイと改めて感じました。

来年も参加したいと思っています。

## 初めて全国吟道大会に参加して

鎌ヶ谷教場 三代川 栄泉

今回初めて全国大会に参加させていただきました。まず、遠い支部からも沢山の方々に参加されていることに驚き、感動しました。

本部役員吟詠、支部長・会長吟詠、宗嗣・宗家吟詠は素晴らしいお声で朗々としていて、本当に感動しました。

宗家「旭日双光章受章」記念吟と舞も素晴らし

かったです。構成吟も企画構成、脚本、映像制作など準備がとて大変だったと思います。そして、吟じて下さった方々、素晴らしい構成吟を本当にありがとうございました。神奈川の歴史も勉強になりました。

私の吟はまだまだですが今回全国大会に参加し、刺激を受けました。こんなに大勢の素晴らしき先輩や仲間がいるのだから私も頑張ろうと思いました。

## 合吟コンクールに参加して

神田教場 中野 郷泉

『詩吟って楽しい！』毎日ワクワク吟じています。

合吟コンクールは二月四日から合同練習が始まりました。合計六回ありましたが、全員が揃ったのは一回でした。五月三十日の女子部研修会で披露した時は「千代田女子大丈夫？」と心配される程合っていない感でした。

合言葉は「鰻」でした。入賞して皆で食べに行こう、と六月九日、十六日最後の合同練習に励みました。私にとって初めての体験で練習後のお茶会もとても楽しかったです。

大会当日もアクシデントがあり、補欠の橋本先生が急遽出場することになりましたが、コンクールの時が一番良くできました。ご指導してくださいました太田先生、花山先生、橋本先生、リーダーの片山先生、一緒に出場した藤村さん、前田さん、座間さん、吉川さん、そして練習に励んだ波治さ

ん、本当にありがとうございました。頂いた銅メダル大切にします。

## 千代田岳精会人事

—令和六年四月一日付

### ◆東陽町支部教場

教場長（再任） 宮野 秀風

### ◆ハザマ支部教場

教場長 三島 寿風

顧問 萩原 龍晴

同 宮永 明風

### ◆清流教場

教場長 加藤 雅山

補佐 大倉 明山

—令和六年五月一日付

### ◆清流教場

顧問 森山 仙山

### ◆丸の内ブロック

副ブロック長 中内 龍博

### ◆東陽町ブロック

副ブロック長 本荘 龍麗

—令和六年七月一日付

### ◆鎌倉教場

教場長 阪川 信山

副教場長 安田 正山

顧問 長谷場 純山

### ◇新宿ブロック

ブロック長兼新宿支部教場長

石井 寅山

ブロック会計長

小倉 孝山

第二教場長

波治 舞風

第三教場長

乙訓 稜山

### ◇弘報部門

リーダー

中屋 明山

### ◇総務部門

リーダー

和田 之山

新任の教場長及び部門リーダーを中心に抱負、感想をお願いしました。

### 教場長に就いて

ハザマ支部教場長 三島 寿風

図らずも教場長に指名されたが、それに値するの自問するも努力あるのみと決意した。

発声、音程、アクセント、詩心表現等に注力し、褒める（良いところを指摘する）、注意する（悪いところを指摘する）と基本に沿って指導する。そして教場が明るくて、楽しい習いの場となるよう取り組みたい。

### 清流教場長を拝命して

清流教場長 加藤 雅山

この度、四月一日付で清流教場の教場長を拝命致しました。森山前教場長が去年から今年にかけて種々の病状の悪化での手術・リハビリで授業継

続が困難になり、少しでも授業負担の軽減に微力をつくせればとの思いから受諾いたしました。

振り返れば私が入会した当時は、初代教場長は菅原精純(当時は龍琴)先生で「丸の内女子教場」の名称で、その後男子生徒も増え「清流教場」と改称。二代目の森山教場長の時代は明治安田生命ビルの改築解体での教場探しと新型コロナ感染の猛威を受けての何名かの生徒の休会・退会との多難な荒波を乗り越えての時代でした。

吟歴六年先輩の森山前教場長には入会当初から私にとって兄貴の様な存在で、基本からそして吟力向上へと導いていただき感謝に堪えません。病状回復後は顧問として授業に参加し、いままでの様に指導していただけなので心強いです。

伝統ある両先生の教場を引継ぎますので、この教場を守り発展させて行くのが私の役割と心得て精一杯精進してまいりますので、幹部役員先生方のご指導及び諸先輩のご支援ご協力を、何卒よろしくお願い申し上げます。

### 鎌倉教場長を拝命して

鎌倉教場長 阪川 信山

この度、七月一日付にて前、長谷場教場長より鎌倉教場長を引き継ぐことになりました阪川信山です。

我が鎌倉教場は今年に入りまして、会員数減少になり寂しい状態にあります。

今後吟友会員と共に、鈴木会長の言葉になりますが「現状維持は後退なり」をスローガンにして

教場の皆さんの吟力向上と共に鎌倉教場が楽しく、また明るくなるように精進したいと思っておりますので、何卒ご指導の程宜しく御願い申し上げます。

### 新宿ブロック長兼支部教場長に就任して

石井 寅山

この度、新宿ブロック長と新宿支部教場長に就任することになりました。先輩方の功績を思うと若輩の私には重責とは存じておりますが、頂戴した御縁に真摯に励ませていただく所存でございます。

詩吟は、歴史と魅力に溢れる素晴らしい世界だと思えます。もっと多くの方に、吟のことを知っていただき、また触れる機会を、今を生きている世界中のひとと、未来に吟と出会う人に伝承することが、ここまで吟を育んでいらした先生方と引き上げてくださった先輩へのご恩返しになると思えますのでこれから精進してまいります。

今後とも、ご指導ご鞭撻をどうぞよろしく御願い申し上げます。

### 新宿第二教場長を拝命して

新宿第二教場長 波治 舞風

この度、新宿ブロックの異動にともない、新宿第二教場長を七月一日付けで拝命することとなりました。

私共、新宿ブロックと教場は八十歳定年制にす

るということで、次の若い世代にバトンを渡して行けることを願いながら、全ての人に平等で楽しい教室にしていければと心に誓い、皆様にご協力をしていただき、共に成長して行ければと思っておりますので宜しくお願い申し上げます。

### 新宿第三教場長を拝命して

新宿第三教場長 乙訓 稜山

世の中、戦争や異常気象やら命の心配ある中、私達はこうして安心して詩吟をやる事が出来る幸せをつくづく思う。その上良き仲間、先輩が一杯いてくれる！互いに詩吟の向上に励むことも出来る！

今回このお仲間の教場長を務めることとなりました。力不足の私ですが、尊敬する橋本先生が立ち上げて下さった新宿教場を次の方にバトンタッチ出来る日まで一生懸命務めたいと存じます。橋本先生、坂下先生、宇田川先生、後藤先生、加藤先生ありがとうございます。

まだまだご指導の程、宜しくお願い致します。

### 弘報部長就任にあたって

神田教場長 中屋 明山

「弘報の手伝いをしてほしい」会長からこんな要請を受けた。直ぐに和田之山さんの人なつっこい細い眼が浮かんだ。和田さんのお手伝いなら喜んで、とお答えした。…つもりでいた。

ところが、である。数日後、幾人かの先輩から

「弘報「部長」就任ご苦労さん、よろしくね」と言われ、びつくり！会長にも確認。なんと、和田さんが総務部長の任に就かれるので、その後を引継げとのこと。生来が怠け者の私に、そんな重責が務まる訳もなくお断りするつもりでいたが、そこに和田さんのあの笑顔、更には、弘報部の重鎮八田精猷先生や清流教場中井武山さんのご協力を得ることでお引受を決断するに至った。

これが私の弘報部長就任の経緯です。何が出来るか、どこまでやれるか、不安で一杯ですが会員の皆様のご支援を戴きながらお役に立ちたいと思っております。

### 総務部門リーダーを拝命して

新陵副教場長 和田 之山

鎌田秋風先生の後任として同職を引継ぎました。鎌田先生が精力的に整備された会員名簿や会員移動（入会、休会、退会等）の手続きなど千代田運営の枠組みを継承、発展させ会員皆様の満足度を向上できるように務めたいと思っております。

これまで担当した弘報部門は神田・元教場長の池田龍康先生以来多くの神田教場の皆様とのご縁もあって現教場長の中屋明山さんに引き継いで頂くことができました。

今後とも皆様のご支援を戴きながら、千代田運営の継続と変革の両立に微力ながら貢献できればと考えております。

よろしくお願い申し上げます。

## 千代田トピックス

### ★能島伸夫氏（新陵教場）

#### 「旭日双光章」を受章

令和六年春の叙勲にて新陵教場の能島伸夫氏（五段 能島浄山）が旭日双光章を受章されました。



能島氏は昭和四十九年に三和銀行へ入行されて以来、大正銀行、カブドットコム証券他の代表取締役社長・会長を歴任され金融業に貢献されました。

### ★袖井孝子さん（神楽坂教場）

#### NHK「日曜討論」に出演

令和六年四月七日のNHK「日曜討論」に出演される「どうする日本の医療」に神楽坂教場の袖井孝子さん（六段・奥伝 袖井孝風）が出演され歯切れよく持論を述べられました。



袖井さんは詩吟を愛好されながら、NPO法人「高齢社会をよくする女性の会」副理事長として活躍されています。

# 春の昇伝審査

今年の春の昇伝審査は新会場の浜松町TKP  
スター会議室にて、三月二十九日(金)に実施され  
ました。当日前は春の嵐のような荒天で皆様の出  
足が心配されましたが徐々に天気も回復し、当日  
欠席や遅刻はなく八五名の会員が予定通り昇伝  
審査を受審されました。

総本部から秋山精正先生及び越智精麗先生を  
審査員にお迎えし、両先生の熱心なご指導と  
と相俟って熱気溢れる昇伝審査会でした。

## ◇初伝合格者

十一名

金町 吉川 桃泉  
表参道 柳内 柳泉

同 笹川 正泉  
同 安藤 道泉  
同 奈良 花泉  
同 濱田 邦泉  
同 榎本 美泉  
同 望月 延泉  
同 楯 香泉  
同 薦田 博泉  
同 鈴木 豊泉

## ◇中伝合格者

七名

東陽町支部 荒木 千山  
同 平居 俊山

ハザマ支部 高岡 幸山  
みなとみらい 安田 恵山

同 園山 千山  
同 宮本 晃山  
同 西多 英山

## 初めて昇伝審査を受審



## 「昇伝審査」受審について

用賀教場 三級合格 堤 瑠美子

三月二十九日、初めての受審をさせて頂きました。吟題は「余生」(良寛)を吟じさせて頂きました。昨年十二月七日から、用賀教場長の松本先生より指導を頂き、東京と福岡間をズームによるオンライン研修を毎週木曜日他に、三か月半の勉強で生まれて初めての詩吟勉強を致しました。発声方法も何も判らず、先生からの細やかな指導を受けさせて頂き、何とか声が出るようになりましたが、全くの未経験で胸はドキドキ、足はブルブル震え

て必死の気持ちで吟じさせて頂きました。

約二分程度吟じる時間でしたが、長く長く感じました。何とか吟じ終えましたが、練習不足で反省いたしました。吟詠した後、審査の先生方から優しい評価をして頂きましたが、まだまだ今から頑張らねばと思っています。

若いころから漢詩が好きで、いつか詩吟を勉強したいと思っておりましたが、縁があつて岳精流日本吟院、千代田岳精会に出会うことができ吟道を通して豊かな心を養いながら頑張つて行きたいと思っております。素晴らしい詩吟に出会い感謝しております。

これからも、よろしくお願い申し上げます。

## 初めての昇伝審査

丸の内支部教場 一級合格 宮川 徹

初めて受審させて頂きました。吟題は「余生」。私が初めて見学した練習会も「余生」でした。温習会では大勢の人で緊張しましたが、「審査を『野菜』に擬えてみたら」と考えました。詩吟を誘ってくれた大学の先輩からは「せめて『果物』でも・・・」と(笑)。

ところが、いざ会場に出たら「野菜」は吹き飛ばす!ただ、脳梗塞からの失語症ゆえ、心配はしていましたが、吟譜なしでできました。

越智精麗先生の「立派です。でも『閑人と(転句)』の部分、言葉が長くなって疲れてくる。しんどい時こそ息をいっぱい意識して吸うこと」とご指摘を頂戴しました。先生が吟じられた「♪

閑人と：♪」の部分は、お声の張りも力強く、魅了されました。

まだ駆け出しですが、詩吟の奥深さを理解し、さらに稽古に励んで参ります。

### 昇伝審査に臨む

桜が丘教場 一級合格 吉村宇太磨

入会まだ一年半まさか昇伝審査を受けるとは思っていませんでした。カラオケが上手だからとお誘いを受け、もう八〇近くなつたし少し何か違ったことでも始めるかと、気やすく受けてのんびりやろうと思っていました。ところが先輩の皆様熱心さにこれではいけないと少しやる気を出して頑張ってきました。

いざ審査が近づいて練習でも完璧にはできなくて焦りと不安が募る日々でした。当日は狭い部屋で参加者や諸先輩が見守るなか六番という早い順番で出番が来ました。

腹をくくって思い切り声を出し力いっぱい吟じようと先夜から誓っていました。その通りできたかなとは自分では思いました。審査の越智先生の講評のレベルが高く理解できない状況でした。ほっとして帰宅するや妻がどうだった？合格したのかとすぐさま問いかけてきました。まだ今日はわからないらしいと答え、教場長にメールしました。「大変良かったとの報告が同僚参加者から来ているよ」との返信あり、ひとまず安心した次第です。

この先、さらに上位資格を目指していかなければ

ばならないのかと思うと少し憂鬱です。でもその場その場、精一杯チャレンジしようとの気持ちにはなっています。緊張感を感じる場面はもう経験するには限りがあります。その場のためにも、日々の教室での練習に一層真面目に真摯に取り組んでゆきたいと思えます。

関係者の皆様当日はご苦労さまでした。ありがとうございました。

### 初伝合格者

初伝審査に臨み

金町教場 吉川 桃泉

石の上にも三年の精神で始めてみた詩吟ですが、すばらしい先生方、心暖かい先輩、美しい教本に囲まれながら楽しく通っているうちに四年目に突入していました。

そして待望の「泉」の雅号を頂くまでになりました。この日まで続けて来られたことをうれしく思います。これからも「勇氣」を念頭に置き「自己研磨」に励みます。

ここまで育てて下さった諸先生方、吟友の皆様方に感謝申し上げます。ありがとうございます。

初伝審査を受審して

表参道教場 望月 延泉

昨晚の表参道教場におきまして「初伝」許証状

を頂きました。また「泉」の文字を頂戴し、「延泉」を拝受いたしました。この場をお借りして関係者の皆様に感謝申し上げます。

二〇二〇年十月より始めた詩吟も三年半の月日が流れ、いまや月二回の教場も人生の一部。その中でも昇伝審査は、吟譜を見ずに今まで学んできたものを発揮する集大成場として非常に有意義な時間です。そこには、作品の中に埋め込まれている「真なるもの」に触れた時こそ、吟譜に頼らない吟ができ、その瞬間に「善なる心」なるものを感じ、そして吟じた後に改めてその詩の「凄さ」、「美しさ」に感動します。それまで言葉として理解していた宗家信条を、昇伝審査を通じて体感できたことが私にとっての真の昇伝を意味しております。

### 中伝合格者



『中伝』受審で学んだこと

東陽町支部教場 荒木 千山

この度の中伝審査は、皆様の吟に感心して聴き入っている間に自身の番になって、緊張がピーク



に。普段は自身で吟題、作者を読み上げて吟じ始めますが、本審査では先生から名前と申請吟題で指名されて先生の前に進み出で即、吟詠開始！

勝手が違うため緊張で頭が真っ白になったせいか、前回受審の「余生」を吟じていました。先生から吟が違ふと中止。審査委員長先生の「では、深呼吸して、はじめからやり直してください」のお言葉を頂いてから、正気に！

今度は絶句することなく「馬上偶成」たわむれに」を吟じ終え、先生から、読み、発声、転句の盛り上げについて改善箇所を、具体的に範をお示し頂きました。心温まるご指導は有難く、今後の吟力向上に役立てる所存です。

### 「山」の雅号を戴いて

ハザマ支部教場 高岡 幸山

昇伝審査の当日は季節外れの荒れた天候の中、早朝より会場設営に尽力下さった先生方に感謝しつつ審査に臨みました。緊張で震え声が止まらず、どうにか暗譜で受審することが出来ました。本日「山」の雅号を戴き麓に立たせて戴いたことを励みに人生一〇〇年と云われる次なる山頂はどんな頂きなのか想像すると楽しく一層の鍛錬をする決意です。

幸いに現在本部部員として多種の行事に参加させて戴いています。四月の岩手吟行会では宴席の後、深夜まで所属会、他会支部の先輩方と語り喜び合える同志にも巡り合うことが出来、まさに良友畏友の岳精会を強く感じた旅行でした。

これからも「フットワークの良い山」を自覚し汗を流してまいりますのでご指導の程宜しくお願い致します。

### 中伝審査を受審して

みなとみらい教場 園山 千山

昇伝審査当日は出かけるのを躊躇する程の大雨の朝でしたが、浜松町に着くと雨が止んで幸運の兆しでした。初めての会場でしたが役員の方々のお陰でスムーズに進行していました。

今回私は中伝を受けました。三種の吟題を暗譜しようと苦戦しました。毎朝のウォーキング途中でブツブツつぶやきながら歩いていたので他人からは変な人に見られていたかもしれせん。毎日繰り返しやつと暗譜しました。

審査当日は緊張で暗譜したにも拘わらず不安になるし高音も声が出ず練習の成果が十分に発揮できませんでした。お陰様で無事に「山」号を賜うことが出来ました。教場で毎回ご指導を戴いています鈴木精成会長ならびに田川行山教場長に感謝を申し上げます。



## 公益財団法人

## 日本吟剣詩舞振興会

# 吟詠コンクール

今年の「吟詠コンクール」は第三部と第二部のバランスを保つため、七〇歳から七四歳の年齢層が第三部から第二部に移行してのコンクールとなりました。

港区が二月、品川区が三月に行われ各々の入賞者は五月の東京都大会に臨みました。

### 港区吟詠コンクール大会

- ・二月二十三日(金)、麻布区民センターにて開催
- ・千代田の入賞は一般二部が六名、一般三部が努力賞を含め一九名

### 品川区吟詠コンクール大会

- ・三月二〇日(水)、荏原文化センターにて開催
- ・千代田の入賞は一般二部が次点を含め三名、一般三部が一七名

### 全国吟詠コンクール東京都大会

- ・五月三日(金)～十二日(日)、荏原文化センターにて開催

### 出場申込者数(他流派を含む総数)

- 一般三部は、三七四名(五月三日～五日)
- 一般二部は、一一三名(五月十一日)
- 幼・少・青年と一般一部は一一四名(五月十二日)
- ・健闘僅かに及ばず、千代田からの入賞は無く、努力賞が一般三部の一名でした。
- 東日本大会への出場はなかなか難関です。

○港区入賞者

◇一般二部	二位	片山	寿風	(みもぎ)
	三位	脇阪	緑山	(東陽町)
	四位	小浦場	伯風	(ハザマ)
	六位	能島	浄山	(新 陵)
	八位	吉川	桃泉	(金 町)
	九位	土居	佳山	(みもぎ)
◇一般三部	二位	西川	琉山	(新 陵)
	四位	下條	信風	(丸の内)
	五位	和田	之山	(新 陵)
	七位	松尾	龍瑞	(ハザマ)
	九位	竹森	伊山	(新 陵)
	十位	中島	義風	(桜ヶ丘)
	十四位	小梶	湖山	(新 陵)
	十六位	白井	洋泉	(神楽坂)
	十七位	高岡	幸山	(ハザマ)
	十九位	中川	史郎	(金 町)
	二〇位	荒木	千山	(東陽町)
	二一位	金井	俊山	(清 水)
	二二位	小林	岐山	(新 陵)
	二八位	関根	雄山	(生 田)
	二九位	柴田	豊山	(新 陵)
	三一位	和田	洋泉	(東陽町)
	努力賞	袖井	孝風	(神楽坂)
	同	金城	明山	(神楽坂)
	同	日吉	龍久	(ハザマ)

○品川区入賞者

◇一般二部	五位	中野	陽風	(新 宿)
	七位	石井	寅山	(新 宿)

◇一般三部

	九位(次点)	中野	郷泉	(神 田)
	五位	平井	武山	(志 茂)
	七位	宮川	龍丞	(神 田)
	十二位	小林	龍紫	(志 茂)
	十六位	坂下	光風	(新 宿二)
	十七位	町田	恵山	(新 宿)
	十九位	小倉	孝山	(新 宿)
	二十位	岡部	禎風	(新 宿二)
	二二位	中井	武山	(清 流)
	二三位	林	實風	(新 宿三)
	二四位	乙訓	稜山	(新 宿三)
	二五位	波治	舞風	(新 宿二)
	二六位	松本	篤風	(用 賀)
	二七位	井上	幸山	(新 宿三)
	二八位	粕川	龍絃	(神 田)
	二九位	岡部	正泉	(新 宿)
	三十位	小柴	藤風	(新 宿)
	三六位	加藤	雅山	(清 流)

○東京都大会

◇一般三部	努力賞	坂下	光風	(新 宿二)
-------	-----	----	----	--------



自主研修部門の紹介

千代田岳精会には千吟会、剣詩舞研修会、自作自詠俳句研修会、漢詩を作る会、演奏研修会、ズーム研修会、詩歌研修会の自主研修部門があります。今回は「自作自詠俳句研修会」を紹介いたします。

自作自詠俳句研修会について

リーダー 橋本 千舟

(千代田雅号：隆風)

・趣旨

千代田岳精会の活動の一環として、平成二十二年四月発足。俳句作りを楽しみつつ吟力の向上を図る。

・活動

毎月第二火曜日(原則として)午後一時～牛込笹笥地域センター(神楽坂)で開催

・内容

- ① 自作二句(兼題一句、雑詠一句)と自選一句(新聞の俳句欄より、但し選者選を除く)、計三句の投稿
- ② 名句鑑賞(鑑賞力の涵養)
- ③ 吟行会の実施(即吟力の養成)
- ④ 句集「湧水」の発行

・その他

日常のことを俳句に、そして句集に!



創作、鑑賞の様子



当日参加の皆さん



千代田ホームページ  
「自作自詠俳句研修会」はこちら

# 『稗搗きの歌 松口月城』紹介

新陵副教場長(許証部長)

西川 琉山

(ちよだ編集部編)

詩吟教本(人の巻)二〇三ページに『稗搗きの歌』が掲載されている。

## 稗搗きの歌

松口月城

屋島の浜の浦の辺 平家の末路亦憐れ垣

残党隠遁す上 椎葉 山岳深き処炊煙を見

庭の山椒の木 鳴る鈴かけてヨイホイ

鈴の鳴るときや 出ておじやれヨイ

哀話綿綿栄華の夢 稗搗の俚諺今に至るまで伝

那須の大八鶴富すててヨイホイ

椎葉まつきや眼に涙ヨイ

### 【はじめに】

「庭の山椒(さんしゅう)の木 鳴る鈴かけて」が歌いだしの『ひえつき節』は、宮崎県東臼杵郡椎葉村(しいばそん)に伝わる宮崎県民謡。元々は稗(ひえ)を臼(うす)に入れ、杵でつくときに歌った作業歌で今日知られている歌詞やメロディとは異なる素朴な労働歌であった。

椎葉村には平家の落人伝説が残されており、現在の歌詞にはその内容も織り込まれている。

### 【ひえつき節の歌詞・一例】

庭の山椒の木 鳴る鈴かけてヨイホイ 鈴の鳴る時や 出ておじやれヨイ

鈴の鳴る時や 何と言うて出ましょヨイホイ

駒に水くりよと 言うて出ましょヨイ

那須の大八 鶴富すててヨイホイ 椎葉たつ時や 目に涙ヨイ

### 〈歌詞の意味〉

・一番と二番の歌詞では鶴富姫と那須大八郎が逢い引きする際の秘密の合図が描写されている。まず鶴富姫の家の前にやって来た那須大八郎は、家の庭にある山椒の木に鈴をかけて鳴らし、自分が来たことを鶴富姫に知らせる。

・その鈴の音を聞いた鶴富姫は「ちよつと馬に水をやってきますね」とウソをつけて外へ出て、那須大八郎と落ち合うという手筈である。

・「ヨイホイ」「ヨイ」は、歌の調子を整えるための特に意味はない囃子ことばである。

### 【平家の落人伝説】

・平安末期一八五年の壇の浦の戦で平家は滅亡し一部の平氏残党は日向国椎葉村に逃れた。  
・源頼朝の命を受け、那須与一の弟・宗久、通称大八郎は椎葉村へ平氏残党の追討に向かった。  
・しかしそこでは、平氏残党は既に戦意を喪失し、実直に農耕に勤しむ農夫となつて、素朴ながらも村での新たな暮らしを築いていた。  
・自然豊かな椎葉村で農業に励む落人たちの健気な姿に心を打たれた大八郎は、幕府には討伐を果たした旨のウソの報告を行つて彼らを助け、自分自身もこの椎葉村に留まる決意をした。  
・大八郎は椎葉村で屋敷を構え、彼らに惜しみなく農耕技術を伝えた。更に平家の守り神である厳島神社を勧請するなどして落人達を慰めたという。

・落人達との交流を深めていくうちに、大八郎は平清盛の末孫とされる鶴富姫と恋に落ち、逢瀬を重ねた。

・何年か経った後、大八郎は鎌倉より帰還命令を受けた。その時、鶴富姫は大八郎の子を身ごもっていた。

・大八郎は「男の子なら連れてこい、女の子ならここで育てよ」と太刀と系図を与え、鎌倉へ帰っていった。その後、鶴富は女子を産んだ。成人後は婿を取り、その後、鶴富が那須下野守を名乗って椎葉を治めたという。

参考文献 インターネット情報

「世界の民謡・童謡」ほか



### 【新会員、復会会員の紹介】

少子高齢化、人手不足が一段と進み様々な分野で根本的な対策が望まれます。

このような中で今年（一月～七月）千代田岳精会に新たに加わっていたいただいた吟友十七名の皆様をご紹介します。

ご一緒に詩吟を楽しみましょう。

### ◇新会員

十五名

一月 用賀

山村 勝利 氏

同

堤 瑠美子さん

ハザマ支部

宮澤 敏雄 氏

みなとみらい

古藤 正也 氏

新宿三

田島浩一郎 氏

三月

永山

土居 公子さん

みもぎ世田谷

山本 公子さん

神楽坂

新宮 清志 氏

四月

みもぎ世田谷

渡辺 弘子さん

神楽坂

下出 美代さん

桜ヶ丘

酒井 幸子さん

表参道

篠 泉さん

新宿三

寺内 一成 氏

ハザマ支部

神田 孝 氏

五月

用賀

貝塚 紀子さん

七月

### ◇復会会員

二名

六月

志茂

久保田雄子さん

七月

新宿二

入住 章雄 氏

### 訃報

◆武藤 弘子(弘風さん)(桜ヶ丘教場)

令和六年一月二十五日逝去されました。

享年七十二歳 平成二十三年入会

桜ヶ丘教場の副教場長として、教場と千代田の発展に貢献されました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

### 編集後記

平成二十七年五月から八田弘報部長のもとで「ちよだ」五一号のパソコン編集を担当して以来、今号までほぼ九年間、皆様の原稿を読み挿絵や写真を組合せながら編集に携わりました。皆様のお人柄と共に一貫して流れる詩吟愛好の心情、情熱に触れて来られたことを感謝申し上げます。

この二～三年、急速に主要各国の政情不安が高じ我々戦後世代には相対的に意識が低かった戦争が身近に感じられます。正義と不正義、善と悪、成功と失敗、勝ちと負け、美と醜、愛と憎、生と死等々の二元性は心中、現実を問わず誰にも在るもので一方に偏ることなくこれらを客観、俯瞰することを通して様々な面で二元性を超えることを探求していけば長い歴史の中で戦争と平和を繰り返すことも超えられる可能性が見えてくるのでは・・・と思うこの頃です。

次号から中屋新リーダーが「ちよだ」を主導されます。

和田之山